

第7回日中韓文化大臣会合 共同記者会見 (抜粋)

日本人記者)

価値ある文化を後世に受け継ぐことをめざすユネスコの世界文化遺産、記憶遺産登録をめぐり、今年は3か国間で政治問題化され、きしみ、こじれが見られた。この文化大臣会合は、こうしたきしみやこじれに対し、7回の開催を経てきた意義も含めて、どのような役割を果たすことができるとお考えか。

義家文部科学副大臣)

国と国，都市と都市，人と人，心と心を結びつけることができるのは，まさに文化である。自国の文化への造詣も深く，また自国の文化への誇りをお持ちである雫樹剛文化部長，金鐘徳文化体育観光部長官と，東アジアの3か国が連携していくことで，より心の交流，人の交流，さらには国と国との交流が進んでいくとの認識で一致した。いつの時代でも，様々な問題が隣国同士であるがゆえに起こるが，文化交流によって，さらに絆を深化させていきたいと改めて実感した。

(平成27年12月20日(日) 於：シャングリラホテル青島(中国・青島市))